

2024年度(令和6年度)学校評価自己評価表

福山市立精華中学校区	校番 35	福山市立藤江小学校
最終更新日		2024年(令和6年)4月12日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】
<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒は、人のため・学校のため・地域のためにできることはないかと考え活動を工夫している。 小中9年の縦のつながりやかかわりを大切にしたい取組を継続していく。 子どもたちが主体性を発揮できるように教職員はPDCAサイクルの視点をもってマネジメントしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味をもったことを探究したり、思いを実現させようと主体的に行動したりする姿が増えている。 自分の考えを持ち、積極的に話したり書いたりするなど、自己表現力の育成に引く続き取り組む。 人間関係の固定化やレジリエンスにややかけるところもある。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	<ul style="list-style-type: none"> 確かな学力を身につけ、自ら進路を切り拓く子ども 自己肯定感が高く、社会に貢献できる子ども
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的な学び」の授業づくりに取組み、学力の向上を図る。 「自己表現」「あいさつ」に取組み、自己肯定感の向上を図る。 「自分で選び・決める活動」に取組み、自己形成力の向上を図る。

III 自校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	主体的に学ぶ力	思考力・判断力・表現力	自己形成力		
<ul style="list-style-type: none"> 笑顔で挨拶ができる子ども 地域に誇りを持つ子ども 自分の将来の夢に向かい粘り強く取り組める子ども 	めざす子ども像	1~4年	日常生活をよりよくするために、様々な情報の中から必要な情報を活かし、解決している。	自分の考えを、相手意識を持って、話したり書いたりして表現している。	思いやりの心を持ち、目標を達成するために、協力し合い、粘り強く努力している。	
学校教育目標 自分を大切に 人を大切に ふるさとを大切に しなかに、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもの育成 「チャレンジ! 藤江っ子」 ~未来に向かって アップデート~	5・6年	日常生活や地域社会をよりよくするために、様々な情報の中から課題に応じた情報を選択し、根拠をもって解決している。	既習事項を活用し、教科・領域及び生活を関連付けながら、自分の考えや意見を工夫して表現している。	誰に対しても思いやりの心を持ち、より高い目標を達成するために、相手の立場や考えを尊重しながら、粘り強く取り組み、やり抜いている。		
現状	テーマ	主体的に学び続ける子どもの育成~自己の学びを自覚し他者との学び合いを通して~				
<児童生徒> 主体的な委員会活動を通して、児童に自分たちで学校をよりよくしようとする気持ちが高まりつつある。自分の思いを表現することはできるようになったが、相手のことを考え伝えるように表現するところまでは十分でない。 <授業> 児童と単元のゴールを共有し、1時間の学びで児童に付けたい力を明確にした授業を意識して行うようになった。教科の本質に迫る教材研究を行うことで、「何を」「どのように」学ぶのかを明確にすることや児童一人一人の学びを大切にすることなどを共有することはできたが、課題は残る。ICTの効果的な活用による授業には一定の成果があった。	研究 内容等	①授業づくりの視点 ~「分かった!やってみよう!!」があふれる授業づくり~ ②指導方法の工夫(教材研究の充実) ~学びをつなぐ、学びでつながる、多様な学びの場の工夫~ ③個に応じた指導の充実 ~「一人一人の学びを大切に!どの子どもみんなに意欲・自信を!」~				
		めざす授業の姿	○「何を」「どのように」学ぶのかを児童と共有し、1時間の学びで児童につけたい力を明確にした授業 ○生活や経験、他の教科・領域と関連付けながら、児童自らが課題を見つけ、主体的に考え、相手に応じて効果的な方法を選択しながら表現する授業 ○単元の終わりのふり返り(自己評価)を通して、児童が学びの変容を実感し自己肯定感を高めることのできる授業 ○関わり合う場の相互評価を通して、友達のよさや自分の成長を実感し、さらなる目標を設定して取り組む意欲を高めることのできる授業			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立藤江小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価
3	「主体的な学 び」の授業づ くりを進め て、学ぶ意欲 と学力を向 上させる。	★	継続	主体的、協働的 な学びを大切に した授業づくり で学力を向上さ せる。	・児童が既習事項 や他者の考え、 資料を関連付 けながら思考 し、表現する場 を工夫した授 業を行う。	・学期末テストの 目標点を上回 る児童70% 以上。 ・学び合いを通し て、自分の考え を深めたり広 げたりするこ とができた と答える児童 80%以上								
			継続	読書活動に積極 的に取り組む児 童を育成する。	・学校図書館利用 の活性化を図 り、日常的に利 用する。	・学校図書館の利 用者数を昨年 度以上にする。 ・目標読書数を 超える児童80% 以上。								
3	教職員の資 質・能力の向 上を図る。	★	新規	「認知のしくみ」 から学習方法を 見直し、一人一 人の学びを促す 教師の役割につ いて研鑽に努める。	・情報交換会を定 期的に開催す る。 ・主体的に他の教 師の授業を参 観し対話する ことで互いに 学び合う。	・「挑戦している」 「教科が面白い」 とする教員 80%以上 ・月1回以上自分 以外の授業を 参観し対話す る教員90% 以上								
			新規	学校における働 き方改革の取組 を推進する。	・各自が業務改善 に取り組み、学 期に1回交流 する。	・「子どもが自ら 学ぶ」授業づく りにあてる時 間がある教員 80%以上								
3	児童の自己肯 定感を高め る。	★	継続	生活習慣を確立 し、自分から進 んで行動する児 童を育成する。	・学級、全校での 活動を児童が主 体となって企画 運営する。	・最後までやり遂 げられて嬉し かったと答え る児童85%以 上。								

		新規	健康維持、体力向上に自ら進んで取り組む児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 自己の健康体力の課題改善に向けて目標を決め取り組ませる。 目標を達成した児童80%以上。 								
--	--	----	-----------------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。